



日本赤十字社東北ブロック血液センター
所長 中川 國利 先生

お答えします!

～読者から寄せられたご質問に答えるページです～



献血は、命を救う尊いボランティアです。「健康である限り続けたい」と、継続して足を運んでくださる献血者も多く、皆さまの善意と志に、改めて感謝と敬意を表します。

採血の基準は、国の法律(安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律)で定められており、年齢については「400ml献血は男性が17歳~69歳、女性が18歳~69歳」「血漿成分献血は男女とも18歳~69歳」「血小板成分献血は男性が18歳~69歳、女性が18歳~54歳」とされています。同じ年齢でも体格・体力に個人差はありますが、これは「献血者の安全を守るため」の基準です。他にも体重、血圧、ヘモグロビン濃度、前回献血からの間隔などに一定の基準があります(※)。

一方、「輸血を受ける患者さんを守るため」として、病歴や薬の服用状況、海外滞在歴などを問診で伺っています。

これらの基準については、随時見直しがあります。年齢は1999年に引き上げられ、今の基準になりました。2020年は「血圧・脈拍・体温」の基準が強化され、「がんの既往」に関する緩和がありました。

献血者数については、ご指摘のように1985年をピークに減少が続いています。そのような中でも必要量を確保するため、これまでさまざまな対策を講じてきました。

一つは「400ml採血と成分採血の推進」です。2019年の統計では、400mlは全体の約66%を占め、かつて主流だった200mlは約3%、必要な成分

Q
献血をする人が減る中、「上限年齢が69歳」とされている理由を教えてください。私は70歳の誕生日前日、残念な思いで最後の献血をしました。(泉区・80代男性)

だけを採る成分献血は約31%となっています。

もう一つは「在庫管理と需給調整の徹底」です。有効期間が短い血液製剤の在庫を、種別・血液型別に管理し、期限切れ率を極限まで圧縮。不測の事態には、全国レベルで機動的に調整しています。

今後の課題は、若年層の減少です。将来の安定供給を支える10代・20代を対象に、現在、出張セミナーを行っております。このような啓発活動にも、ご理解とご協力をお願いいたします。

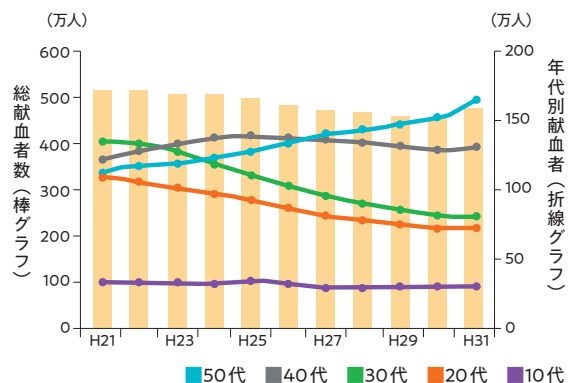
なお、上限年齢に達した皆様には、身近なボランティアである献血を将来担う若者に勧めていただければ幸いです。

※献血基準の詳細

<http://www.jrc.or.jp/donation/about/terms/>



献血者数と年代別献血者の推移



(日本赤十字社調べ)

ご質問募集中!

健康にまつわるご質問がある方は、住所、氏名、性別、年齢、電話番号を明記の上、とじ込みのがき、または仙台市医師会ホームページの「お問い合わせ」フォームでお送りください。採用された方にはクオカードを差し上げます。※いただいた個人情報は、掲載に関すること以外には使用いたしません。

